

ほけだより 12月

2015年12月
沼津中央高校
保健室発行



気をつけたい冬の感染症

	インフルエンザ	ウイルス性胃腸炎（ノロウイルス）
多い時期	1～2月	11～2月
症状	38℃以上の急な発熱 のどの痛みや鼻水の他にも頭痛・関節痛・筋肉痛	突然の激しい吐き気・おう吐・下痢、腹痛を伴うことも。発熱は軽度
感染	人からの感染（飛沫感染・接触感染） ・飛沫感染：せきやくしゃみなどによって、飛び散ったウイルスが、口や鼻などの粘膜に直接触れて感染すること ・接触感染：患者、保菌者、病原体の付着した物品などに接触して、感染すること	人からの感染 （おう吐物からの二次感染・飛沫感染） 食品からの感染 （ウイルスに汚染された2枚貝など）
ワクチン	予防接種あり	なし
治療	抗インフルエンザ・ウイルス薬の服用	水分補給などの対症療法
予防	マスク・手洗い・予防接種	手洗い・食品の加熱（85℃以上で90秒間以上）

秋から増えている新型も対策は同じ。手洗いと十分な加熱を！



HIVとエイズのいまは？

正しい知識を！！

● 2014年末時点で日本の	● 2014年に日本で新たに報告された
■ HIV感染者は・・・16,903人	■ HIV感染者は・・・1,091人
■ エイズ発症者は・・・7,658人	■ エイズ発症者は・・・455人
平成26年エイズ発生動向（厚生労働省エイズ動向委員会）	

このうち
20代は349人
30代は347人
と圧倒的に多い

エイズとは

HIV（ウイルス）の感染から免疫力が低下して、いろいろな疾患（厚生労働省の決めた疾患）を発症した状態です。

予防対策

◆ HIVは感染者の血液や精液、膣分泌液などにいますが、感染力は弱く、日常生活（握手・入浴など）ではうつりません。

感染の危険があるのは次の3つ

① 性的な接触でHIVが粘液や傷口から進入

② 血液中のHIVが傷口から進入

③ 母親から赤ちゃんへの母子感染

早期発見

◆ HIVに感染しても自覚症状がない期間が数年続きます。その間に他人にうつす危険もあります。「もしかしたら」と思ったら保健所や病院での検査が必要です。ただし、HIV抗体は感染者から3ヵ月経たないと検出されません。

治療のいま

◆ 今はまだ体の中のHIVを取り除くことはできませんが、HIVが増えるのを押さえる治療薬があります。HIVに感染、エイズ発症してもきちんと治療すれば普通の生活も送れます。ただし、エイズを発症してしまうと治療は難しくなるので、早期発見・早期治療が重要です。